

平成30年度 学校経営方針に基づく学校評価（自己評価）集計

【経営テーマ】	人とのつながりを大切に「チーム武蔵野」	【教育目標】	○しっかり考える子 ○つよく元気な子 ○心やさしい子
---------	---------------------	--------	----------------------------------

【評価】 4：そう思う（達成率 75～100%） 3：だいたいそう思う（50～75%） 2：あまりそう思わない（25～50%） 1：そう思わない（0～25%）

	評価項目	主な評価観点	観点評価 (昨年度)	成果 (観点評価又は評価で「4」の評定を行った場合には、必ず記入する)	課題及び改善策 (観点評価又は評価で「2」以下の評定を行った場合には、必ず記入する)
「確かな 学力・健やかな体等」 育成	① CDT テストを実施、学校の総合学力を調査する。 ○学習支援員による個への支援を実施する。 (課題あるところへ重点配置)	① 前年比プラス、または全国・都・昭島平均を目指す (調査結果) ○予算の計画的執行100% (結果)	3.2 ↑ (2.8)	・CDTテストを全員実施でき、学年の総合学力を判明できた。習熟度別算数において、支援員を配置した。 ・CDTテストでは、4教科中3教科で全国平均を上回ることができた。(標準学力調査では2教科とも全国平均を下回った。) ・CDT テストでは、国語が全国平均を下回り、算数で上回った。 ・CDT テストの学年平均がおおむね全国平均。 ・児童の実態把握に活用できた。 ・児童の学力の実態が把握できた。 ・3、4年の「じっくりコース」に毎時間ではないが支援員が来て個への支援を実施することができた。 ・経年変化を配布し、各学年の意識を高めることができた。	・学年の会計については、保護者負担を減らす一層の工夫が必要である。指導のために一括購入する必要があるものと、個人購入でもよいものを分けるべきである。今年度の購入品を見直し個人購入でもよかった物は、次年度の学年の引き継ぎで伝える。
	② 少人数の話し合い、自力解決と検討発表の場の充実。 ○家庭学習全体計画を作成し、全校で進める。	② 1時間に、児童が考え発表する「学び合い」の時間を確保 ○全体計画に基づく家庭学習の定着80%以上 (教員評価：保護者評価)	2.7 ↓ (2.8)		・家庭学習全体計画を作成していない。学級で、家庭学習については定着を図っている。 ・全体計画に基づく家庭学習の定着アンケートを実施していない。個人での確認では、80%程度定着している。 ・学び合いまで、到達していない。 ・家庭学習の定着がまだできていない。
	③ 読書週間と朝読書時間の設定。 ○図書館支援員による読書活動の推進。	③ 年間における図書の貸し出し冊数、前年比プラスにする (結果) ○読書感想等による啓発活動の充実 (実績評価)	3.0 ↑ (2.8)	・図書の時間を設定し、毎週実行している。また、感想の交流を行っている。 ・読書をする児童が多くなった。 ・朝読書で落ち着いて1日がスタートできた。	・図書室での活動が少なく、貸し出し冊数が少なかった。これからは図書室をもっと活用していく。 ・時数の余裕がなく、授業中では図書の時間は確保できなかった。
	④ 体力調査結果、前年度改善点の解消をする。体育の充実と体力テスト結果の活用。 ○健康教育・食育推進計画を改善・充実する。 ○オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	④ 前年度比で向上 (全国・都・市の平均値を目指す。) (調査結果) ○欠席・怪我の発生率、給食残菜率の前年比で減少 (年間の調査結果) ○オリ・パラ学習実践を教科・道徳・特別活動等で実施 (実施状況)	3.0 ↑ (2.6)	・体育講師と連携し、やり方から復習したことで、記録が伸びた子が多くいた。 ・体力テストの記録が伸びた児童が多かった。・前年度の結果を受けて、体力テスト前に取り組み方の練習を入念に行った。また、むさしのオリンピックを開催し結果の向上を目指した。(結果が出ていないので、暫定的な評価) ・武蔵野オリンピックの取り組みが記録向上に向けて効果的であった。 ・安芸先生に指導していただきよかった。 ・夢・未来プロジェクトを実施したことは、児童にとっても教員にとってもプラスだったと思う。 ・夢未来プロジェクトで、子供たちがオリンピックを少し身近に感じることができた。 ・体力テスト前に研修会を開いた。	・むさしのオリンピックの開催回数を増やして体力向上につなげたい。 ・体力向上のために企画されていた「武蔵野オリンピック」だが、2回しか実施できなかった。この時期は、長縄週間などもあり、いそがしかった。時期をずらすなどして、継続してできるようになるとよいと思う。 ・他の取り組み等もあるため、実施期間の設定が難しい。 ・実施回数が少なく、間が空いてしまって効果が薄れた。 ・体力調査のための練習に重きを置いたところがある。 ・体力調査の練習をどの程度やるのか、学年や学校によって差がある。普段の体力の向上をするべきところ、体力調査の練習に重きを置いたところがある。
	⑤ そよかぜ教室の取組の充実を図る。 ○学習支援員等の有効活用を図る。	⑤ 教員による計画達成率と保護者・児童の満足度80%以上 (調査結果)	3.1 ↓	・全校にそよかぜ学級の啓発を行えた。 ・そよかぜ教室と連携はとれている。 ・教室やそよかぜでの児童の様子をこまめに情報交換している。	・そよかぜ学級の学習計画や学習内容の適正さを確認するシステムが無い。

			(3.3)	・そよかぜの先生と連携し、取り組むことができた。 ・研修会がとても有り難かった。 ・研修を開いていただき勉強になった。	
「豊かな心」育成	① <u>児童が「考え・議論する道徳」の授業を行う。</u> ○コミュニケーションスキル向上のため、学級アセスメント（QI調査）を実施し、学級の実態に応じた指導を行う。構成的グループエンカウンターを活用する。 ○特別活動の内容の充実を図る。 ○総合的な学習の時間を中心に地域の教育人材参画と、体験活動を重視した活動計画を実施する。	① 教育活動全体で行う道徳教育と、教科道徳の実施（授業観察） ○児童の自己肯定感80%以上（実施状況調査） ふれあい月間での調査と継続指導（実施状況） ○学級活動の確実な実践を図る。（実施状況・授業観察） ○地域の人材活用で豊かな体験授業・活動を実施（年1回以上）	3.1＝ (3.1)	・道徳や特別活動に関する校内研修が充実していた。 ・特別活動の内容の充実、地域の教育人材活用が今後さらに必要である。	
	② <u>学習・生活規律の共通理解と指導の徹底を図る。</u> ○明るく元気な学校を目指した挨拶運動の実施。	② 目標達成度調査を実施達成度80%以上（取組結果） ○あいさつ運動の実施（児童会・PTA等の実施状況）	3.3↑ (2.8)	・ユニバーサルデザインの活用ができた。 ・あいさつ運動は、委員会や中学校との連携があり、とてもよかった。（2） ・中学生と一緒に行ったあいさつ運動がよかった。地域の方も顔を出してくれていた。 ・中学校と連携して挨拶運動が行われていた。（2） ・あいさつ運動の実施はよかった。	
	③ 教育活動を通して外部人材の活用も図り、日本の伝統・文化に関する取組を充実させる。また、外国人との文化交流体験を推進する。	③ 茶道・民舞・わらべ歌学習等、和太鼓等の伝統・文化に関する取組を実践する。（取組結果） JETプログラムの実践。（取組結果）（施策として市が実施せず）	2.4↓ (3.1)	・花いっぱい運動、いちいの杜との交流活動をおこなった。	・一年生一学期はまだ十分に組み合わせていない。 ・まだ、計画を行えていない。JETの計画が出ていない。 ・運動会の表現で民舞を行い、日本の伝統・文化に親しませる予定。 ・伝統・文化に関する取組を実践することができなかったが、2学期は行う予定である。 ・児童が意識的に日本の伝統・文化に触れる機会は少なかったので二学期は増やしていきたい。 ・今後実施する予定。 ・1学期は実施できた学年が少なかったのではないかな。 ・2学期以降で取り組む。
	④ 校庭の芝生や自然環境、本物体験を重視した活動を展開。	④ 教科・領域とPTAとも連携した事業の展開（取組結果）	2.8↓ (3.0)		・教科・領域での実践の計画がない。 ・芝に関して児童主体で行う活動が少ない。 ・今後を見通したうえで昨年度の反省を部会でまとめ、今年度の提案にそのことを加えたのだが、実際には昨年度の反省を活かせなかった。（運動会の芝コースづくりについて）
能力開発と資質向上	① 自己申告における目標設定を一層重視する。 ○教科領域を指定した授業観察を実施。	① 自己申告の当初面接の事前・事後指導の実施（実施状況） ○意図的・計画的な授業観察を年2回以上実施（実施状況）	3.0＝ (3.0)		

	② 個々の目標を共有し授業を見せ合う機会を設定し、OJTの活性化を図る。小中一貫プロジェクトの推進と各校の連携。	② OJT シート等を活用し、目標共有の機会を設定（実施状況） 外部講師招聘しての研究授業含む（実施状況） 小中一貫教育の計画的な進行管理（実施状況・校内評価）	3.1↑ (3.0)	・OJT や若手研修は、多忙な中でも計画的に進めていると感じる。 ・道徳や特別活動に関する校内研修が充実していた。 ・OJT研修の充実を図れた。	・小中一貫プロジェクトでは中学の参加意欲が低い。 ・OJT シートを作成していない。
	③ 年3回の研修と職員夕会等での研修の実施。 <u>外部講師を招聘しての研修実施（メンタルヘルス含む）</u> 。	③ 服務事故ゼロとメンタルヘルスの維持向上（実績調査）	3.0＝ (3.0)	・短時間ではありますが、大変勉強になりました。	・メンタルヘルスの研修は行われていない。
組 織 力 の 向 上	① サイクルのC・Aを重視し前年度踏襲から脱却。	① 分掌提案時に新しい提案を原則として改善を図る。（提案の状況）	2.8↓ (3.1)		・昨年度の反省が出ていても、十分に生かせていないように感じる。過重校務を減らせるような提案に努める。
	② 事前起案の徹底と、審査の正確化と迅速化を図る。	② 内容によって起案を1週間、3日、前日とする。（提案の状況）	2.7↓ (2.9)		・早めに起案する。 ・記載事項の数字の間違いがあった。担当や学年、分掌において複数でチェックし、迅速に起案が通るようにしたい。 ・事前起案が遅くなることがあった。 ・提案が遅くなってしまったことがあった。 ・起案が前日の学級が多かった。 ・計画的にできず、起案が遅くなることがあった。
	③ 問題・事故については情報を即共有し、組織的にその日のうちに行動を起こす。 ○学年・専科の打合せを日常的に行い、チーム（担当・学年・主任・主幹）による多様な対応を日常化する。	③ 「報告・連絡・相談」及び「確認」の徹底を図る。（実施状況） ○児童にかかわる情報交流「1日10分」と生活指導や校内委員会での事例研究を充実させる。問題・事故の「芽」の情報共有を日常的に行う。（実施状況調査）	3.1↑ (3.0)	・学年内での打ち合わせを積極的に行っている。 ・毎日、情報共有を行い、指導に生かすことができた。 ・日々情報共有し、児童指導に向けて検討することができた。 ・専科での情報交換を日常的に行った。 ・報告が必要な傷病については、その日のうちに管理職へ報告した。	・「報告・連絡・相談」「確認」の徹底を図る。 ・報告が漏れてしまうことが何度かあったため、二学期以降は確実に行う。
理 解 ・ 連 携 ・ 協 力 の 強 化	① 学校公開・保護者会計画を改善・実施する。また個人面談や家庭訪問を有効活用する。	① 学校公開や保護者会の実施（実施状況）	2.7↓ (3.0)	・実施状況は良い。 ・学校公開や保護者会では、毎回参加してくれる方も数名いる。	<家庭訪問について> ・猛暑の中の家庭訪問は、危険である。面談は学校で行いたい。（2） ・家庭訪問は、暑い時期に行うと、教員の負担が大きい。 ・家庭訪問に関しては、前年度よりこの日程で行う予定で全体にも周知したが、暑さを見越して実施時期を変更するべきだった。気付かずすみません。 <保護者会について> ・保護者が学校に来る機会が多く、参加率も少なくなっている。公開の回数を検討した方がよい。（2） ・回数を増やしても、曜日が同じだと参加率は増えないのではないかと。 ・6月に2回公開があり、2回目の公開にはあまり保護者の方が来なかった。（1回目の公開の時と顔ぶれもあまり変わらず…） ・6月末の保護者会前の公開の参加がとても少なかった。6月中旬にもあったからではないかと思う。 ・保護者会前の公開は参観者が1名で、毎回ほとんど来ない実態がある。 ・7月のセーフティ教室は、保護者の方が2名しか来ず、せっかくの会なのに

					もったないと思った。講師の方に来ていただいている物なので、多くの人が来られる土曜日に設定できるとよいなと思った。 ・6月末の公開、保護者会の参加がとても少なかった。セーフティ教室は、平日実施では、参加人数が少ない。 ・6月に2回設定されており、参加人数が少なかった。また、7月のセーフティ教室は学年で一人しか参観がなかった。 ・学校公開や保護者会で全くお会いできていない方もいるので、面談を通して学校や家庭での児童の様子を伝えたい。 ・清里移動教室直前の学校公開は、児童にとって体力的に厳しかった。 ・個人面談が夏にあったため、1学期に面識をもてなかった保護者が多数いた。
	② 各種便りの発行計画を作成し、内容を一層工夫する。 ○学校評価を改善し、結果の反映に努める。	② 各便りの発行全体計画作成。(実施状況) ○学校評価の実施方法の工夫・改善(改善状況・学校評議員)	3.0 = (3.0)	・学校評議会だよりの発行ができた。	・発行全体計画を作成していない。
	③ 職員の地域行事参加を意図的・計画的に行う。	③ 年間地域行事参加計画の作成と参加体制の工夫(実施状況)	3.2↑ (2.9)	・地域行事の参加計画通り実行できている。 ・ウィズユースの活動を通して、教員が計画的に地域行事に参加している。 ・7月現在では、ウィズユースの行事に計画通り参加していただいている。これからも声掛け等を行うようにする。 ・休日の地域行事参加等、特に若手の教員が取り組んでいることに感心する。負担が偏らないよう、より計画的に参加体制を考えるべきだと思う。	

中間評価から見える本校のよさ

- C D Tテストを実施、学校の総合学力を調査する。(3. 2 昨年度比 +0. 4)
⇒C D Tテストの結果から学年の総合学力や児童の実態を把握できた。また、習熟度別算数においては学習支援員による個への支援が実施できた。今後も全体の傾向と個別の課題を見取り、日常の指導に生かしていく。
- 学習・生活規律の共通理解と指導の徹底を図る。(3. 3 昨年度比 +0. 5)
⇒ユニバーサルデザインに配慮した環境が整ってきた。挨拶については瑞雲中学校と連携した挨拶運動がとてもよかったとの声が多くあった。引き続き気持ちよく挨拶できる児童の育成を目指していく。
- 職員の地域行事参加を意図的・計画的に行う。(3. 2 昨年度比 +0. 3)
⇒休日の地域行事へ計画的に参加できている。無理のない範囲で参加し、来年度に向けて参加体制を検討していく。

中間評価から見える本校の課題

- 少人数の話合い、自力解決と検討発表の場の充実。(家庭学習全体計画を作成し、全校で進める。)(2. 7 昨年度比 -0. 1)
⇒家庭学習の定着アンケートを実施できていないので2学期に行い実態を把握する。家庭にもはたらきかけ、定着度80%以上を目指す。
- 教育活動を通して外部人材の活用も図り、日本の伝統・文化に関する取組を充実させる。また、外国人との文化交流体験を推進する。(2. 4 昨年度比 -0. 8)
⇒J E Tプログラムは今年度、市として実施していない。各学年で2学期以降取り組んでいく。
- 事前起案の徹底と、審査の正確化と迅速化を図る。(2. 7 昨年度比 -0. 2)
⇒早めの起案を心がける。また、担当や学年、分掌において複数でチェックしていく。
- 学校公開・保護者会計画を改善・実施する。また個人面談や家庭訪問を有効活用する(2. 7 昨年度比 -0. 3)
⇒保護者会時の学校公開・家庭訪問については、教務主任会で他校の現状や教育委員会の方針を聞いて検討する。来年度のセーフティ教室は土曜公開時に実施する。

さらによくするために

○図書館支援員による読書活動の推進。読書週間と朝読書時間の設定。

⇒図書室のシステムを利用し、利用頻度や貸し出し冊数をデータ化し確認する。同学年内の各学級で比較しながら、大きな差がでないように努めていく。

○オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。

⇒オリンピックだけでなく、パラリンピック教育についても同じように推進する必要がある。ゴールボールや車いすバスケットなど連携をとり、ゲストティーチャーを呼んで講演や体験を行うなど、児童がパラリンピックへの理解を深められるようにする。

○「考え・議論する道徳」の授業を行う。

⇒1学期の指導と評価を見直す。道徳推進教師から研修で学んだ内容や情報を教えていただき、今後の授業にいかしていく。

○「学習・生活規律の共通理解と指導の徹底を図る。

⇒ユニバーサルデザインについては、今後も保健部を中心にチェックリストを活用しながら、武蔵野のスタンダード、これからスタンダードにしていきたいことなどを明確にして推進していく。

○外部講師を招聘しての研修実施（メンタルヘルス含む）

⇒外部講師によるメンタルヘルスに関する研修を検討中。

○各種便りの発行計画を作成し、内容を一層工夫する。

⇒学級通信の発行の様子を調査し、状況を把握する。

次年度以降に向けて

○行事のサイクルについて

⇒学芸会・芸術祭を隔年で実施している。このままで実施していくのか、別の方法（学芸会・展覧会の2サイクル、学芸会・展覧会・音楽会の3サイクルなど）で実施するのか、先生方のご意見を伺いたい。